

# 市川三郷町の防災への取組とハザードマップの作成・洪水とは

## 市川三郷町の防災への取組とハザードマップの作成

市川三郷町では毎年6月の土砂災害防止月間に合わせて、町内の土砂災害のおそれがある地域において、土砂災害防災訓練を実施してきました。また、平成21年3月には、「市川三郷町洪水ハザードマップ」を作成し、想定されている災害の危険を周知してきました。

このたび、平成29年に国と山梨県により想定最大規模の降雨を前提とした洪水浸水想定区域が公表されたことを受け、「市川三郷町洪水ハザードマップ」を更新しました。

このマップでは富士川・釜無川・笛吹川・芦川が大雨によって増水し、**堤防が破壊された場合に、浸水の広がる範囲とその深さを想定した「洪水浸水想定区域」**を示したものです。また、同じく大雨が原因となる土砂災害警戒区域等やその他の危険箇所、並びに各地の避難所等(指定避難所・指定緊急避難場所)も示しています。

町民の皆様にはこのマップをご覧になって、ご自宅などの危険性の確認、避難所等の確認などその時に対する備えを心がけて頂くとともに、実際に災害発生が予想される場合においては、どこに逃げればよいかを日ごろから考えておくようにしてください。

なお、これらの洪水浸水想定区域は1つの例であり、想定を超える降雨の影響によるはん濫や対象河川以外の河川によるはん濫及び内水はん濫を考慮しておりません。このため浸水が想定されていない区域においても、浸水が起こる可能性がありますので、注意してください。

## 洪水とは

### 洪水とは

洪水とは雨などにより川の水量が普段より著しく増えた状態をいいます。

河原へ行くと広い敷地のわりに中心部しか水が流れていません。これが通常の姿です。ところが、川幅いっぱいに水が押しよせると、広い河原も水の下に隠れて見えません。

このように異常に水が増えた時を「洪水」といいます。

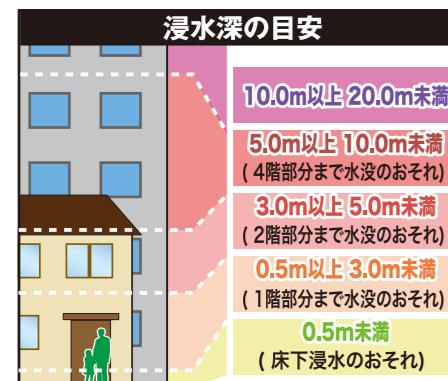
### 浸水想定条件

#### ■浸水の想定条件

市川三郷町洪水ハザードマップに掲載している洪水浸水想定区域は右の表の降雨条件の際に**富士川・釜無川・笛吹川・芦川で想定される最大浸水深を重ね合わせたものです。**

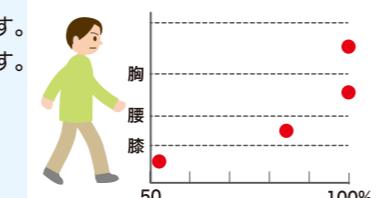
対象河川名	降雨条件	実施機関
富士川・釜無川	富士川上流域：632mm/48時間 富士川下流域：565mm/48時間	国土交通省
笛吹川	632mm/48時間	国土交通省
芦川	92.34mm/1時間	山梨県

### 浸水想定区域内における浸水の深さ



#### 【浸水深の目安】

- 浸水深 5.0m：建物の2階が水没してしまいます。
- 浸水深 3.0m：建物の2階の床下までつかります。
- 浸水深 0.5m：大人のひざ程度までの浸水です。  
建物の1階の床下までつかります。
- 【避難について】
  - 浸水深が大きくなると、避難が困難になります。
  - はん濫した水は、茶色く濁っており、水路と道路の境や、ふたが開いているマンホールは、見えません。やむを得ず水の中を移動するときは、棒で足下を確認しながら移動しましょう。



### 洪水に備えて、次のこと気につけましょう

- 避難所等はどこにあるのか、そこに行くためにはどのようなタイミングでどこを通れば安全か事前に確認しておきましょう。
- 避難するときに持ち出す荷物をあらかじめ準備しておきましょう。
- 防災行政無線などの呼びかけに注意するほか、ラジオ・テレビ・インターネットなどで正確な情報を入手しましょう。
- ご近所の高齢の方や障がいを持った方など1人で避難するのが困難な方には、日ごろから災害時にどのような対応を取ればよいか地域などで考え、避難の時には協力しましょう。

# 土砂災害とは・避難時の危険箇所

## 土砂災害とは

土砂災害とは、大雨や地震などにより、がけ崩れが生じたり、水とまじりあった土や石が川から流れ出たりすることによる自然の災害です。

### 土砂災害の種類と前兆現象

#### 急傾斜地の崩壊(がけ崩れ)

地中にしみ込んだ水分が土の抵抗力を弱め、雨や地震などの影響によって急激に斜面が崩れ落ちるのが「急傾斜地の崩壊(がけ崩れ)」です。

- 次のような前兆現象があります。
- がけから小石がぱらぱらと落ちてきた
- がけに割れ目ができた
- がけから水が吹き出てきた

#### 土石流

山腹、川底の石や土砂が長雨や集中豪雨などによって一気に下流へと押し流されるのが「土石流」です。

- 次のような前兆現象があります。
- 山全体がうなっている(山鳴り)がする
- 川の水が濁ったり、流木が混ざったりする
- 雨が続いているのに川の水が減っている

#### 地滑り

斜面の一部あるいは全部が地下水の影響と重力によってゆっくりと斜面下方に移動するのが「地滑り」です。

- 次のような前兆現象があります。
- 地面がひび割れた、一部が陥没あるいは隆起した
- 地下水などの水が濁った
- 池や湖の量が急に変化した

### 土砂災害警戒区域等

土砂災害警戒区域等は、土砂災害のおそれのある区域について危険の周知、警戒避難体制の整備などのソフト対策を推進しようとするものです。山梨県は土砂災害防止法に基づいて、土砂災害のおそれのある土地の区域について「土砂災害警戒区域」と「土砂災害特別警戒区域」の指定を行っています。

#### 土砂災害警戒区域

急傾斜地の崩壊や土石流、地滑りが発生した場合に、住民等の生命又は身体に危害が生じるおそれがあると認められる土地の区域であり、危険の周知、警戒避難体制の整備が行われます。

#### 急傾斜地の崩壊(がけ崩れ)の場合

土砂災害警戒区域には次の土地の区域が指定されます。

- 傾斜度が30度以上で高さが5m以上の区域
- 急傾斜地の上端から水平距離が10m以内の区域
- 急傾斜地の下端から急傾斜地の高さの2倍(50mを超える場合は50m)以内の区域



#### 土石流の場合

土砂災害警戒区域には次の土地の区域が指定されます。

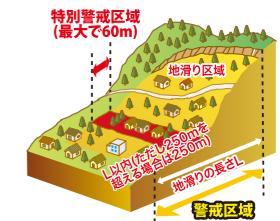
- 土石流の発生のおそれのある渓流において、扇頂部から下流で勾配が2度以上の区域



#### 地滑りの場合

土砂災害警戒区域には次の土地の区域が指定されます。

- 地滑り区域(地滑りしている区域又は地滑りするおそれのある区域)
- 地滑り区域下端から、地滑り土塊の長さに相当する距離(250mを超える場合は250m)の範囲内の区域



- 土砂災害警戒区域のうち、土石流により建築物がある場合に作用する力の大きさが、通常の建築物が耐えることのできる力の大きさを上回る土地の区域が土砂災害特別警戒区域となります。
- 土砂災害警戒区域のうち、地滑りに伴って生じた土石等により建築物がある場合に作用した時から30分間が経過した時において建築物に作用する力の大きさが、通常の建築物が耐えることのできる力の大きさを上回る土地の区域及び、地滑り区域の下端から60m範囲内の区域が土砂災害特別警戒区域となります。

### 避難時の危険箇所

#### 避難時の危険箇所には、次のようなものがあります

- 側溝のつまりによるはん濫：たまつた水が排水されずに道路にあふれた状態です。足を取られる危険があります。
- アンダーパス(地下道)の冠水：水がたまりやすく、深さが分かりにくいため、車両が水没する危険があります。